

七転び，八起き 一教職大学院での学びを現場で活かす一

その1 はじめに 「あいさつと今後のコラムについて」

「教育は人なり」とよく言われます。私自身，教育に携わる職業の1つである教師としてこのことを自覚し，日々の職務にあたってきました。その中で私は，生徒一人ひとりのよりよい成長を促していくことを常日頃から大切に考えて，生徒たちのために一生懸命に尽力していこうと思いながら過ごしてきました。しかし，そんな中でもふとした瞬間に頭によぎるのは，「本当に今自分が行っていることが，子供たち一人ひとりにとって充実した教育活動となっているのか？」という疑問でした。自分自身の指導の在り方が本当に生徒たちのためになっているのか，それが本当にベストな方法だったのか。そんな思いは，教職経験を重ねれば重ねるほど強くなり，教育に対する疑問や悩みは増えていきました。

そんな折に，上越教育大学教職大学院の山田智之教授のもとで学ぶ機会をいただきました。大学院での2年間は，講義だけでなく，実習による実践的な学びや研究活動を通して多くの学びを得ることができました。またそれだけでなく，多くの人たちとの出会いと触れ合いを通して様々なことを経験させていただき，教師としての学びを深めるとともに，自らの教育に対する考えを改めて見直す機会とすることができました。

このコラムでは，そんな大学院での学びと現場に戻ってからのこの数か月で感じたことについて紹介させていただければと思っています。

さて，あいさつが遅れましたが，福島県で中学校教諭をしている吉村憲治と申します。

この度研究推進委員会よりお誘いをいただき「教職大学院での研究活動と現場の実践の関連」というテーマのもと，今回を含めて全4回（内容は以下の通り）のコラムを担当させていただくことになりました。

<コラムの内容>

- (1) はじめに：「あいさつと今後のコラムについて【本稿】」
- (2) 教職大学院での学び：「一期一会，様々な出会い（予定）」
- (3) 教育現場に戻って：「学びを通して見えてきたもの（予定）」
- (4) さいごに：「今を思い，これからを考える（予定）」

今回，このような大変身に余る機会を頂き感謝しております。稚拙な内容かもしれませんが，私自身が教職大学院での学びを経て今感じ，考えていることを，できる限り精一杯書き記していきたいと思っておりますので，最後までお付き合いいただければ幸いです。よろしく願いいたします。

（福島県喜多方市立第二中学校 吉村憲治）